

1 水田への高収益作物（にんにく）の作付推進

～ほ場整備地区へのにんにく導入とにんにく産地の維持・拡大を目指して～

【概要】

- 管内のほ場整備地区では、農業者の所得確保に向けた高収益作物の導入が必要であることから、ほ場整備地区におけるにんにくの作付面積拡大を図るため、指導を行った。
- 管内全体のにんにく産地の維持・拡大を図るため、会議の開催による情報共有、現地講習会の開催による指導の徹底、アンケートによる現状と課題の把握に努めた。

【背景・課題】

- 管内のほ場整備地区において、当地域で産地化されており高収益が見込まれる「にんにく」を導入し、所得向上を図る必要がある。
- 高齢化や労働力不足等により、管内全体でにんにくの作付面積が減少傾向にあることから、現状や課題の把握に努め、にんにく産地の維持・拡大を図る必要がある。

【普及指導活動の内容】

- 弘前市三省地区では、昨年になんにくを作付けた1法人に対して、生育調査の結果を活用して、個別指導を行った。また、藤崎町福島地区の生産者に対して、講習会を通じて栽培指導を行った。
- 中南地域になんにく優良種苗生産指導プロジェクトチーム会議を開催し、関係機関と情報共有を図った。
- 藤崎町に生育観測ほを3か所設置し、そのデータを活用して、追肥、収穫、植付けの講習会を農協と連携して行った。
- 2農協のになんにく部会員に対して、現状や労働力の課題に関するアンケートを行い、現状把握を行った。

【成果】

- 三省地区では、個別指導により適期に作業が行われたほか、福島地区でも計画的になんにくの作付けが行われた。
- にんにく部会員に対して講習会で指導を行ったことで、適期作業が行われ、良品生産に繋がるとともに、優良種苗生産に対する理解が深まった。
- アンケートの結果、植付けと収穫の労働力が不足していること、植付機や収穫機の導入意向があることが確認された。

【対象名】

- J A津軽みらいときわになんにく部会（101人）
- つがる弘前農協になんにく部会（57人）
- ほ場整備地区担い手農業者（弘前市三省地区：8人・法人、藤崎町福島地区：29人・法人）



ほ場整備地区での植付作業



中南になんにくPT会議



にんにく栽培講習会

2 中南型りんご高密度植わい化栽培の導入推進

～1年生ノンフェザー苗を利用した高密度植わい化栽培の導入推進支援～

【概要】

- 本県のりんご高密度植わい化栽培技術確立に向け、現地モデル園を設置し栽培管理等の調査を行った。
- 栽培技術の早期普及に向け、関係機関・団体と連携し研究会を開催して、情報共有を図った。
- 「中南地域のりんご高密度植わい化栽培事例集」を作成し、栽培技術やポイント等の普及を図った。

【背景・課題】

- 高密度植わい化栽培の円滑な導入を支援するため、高品質安定生産技術の確立と早期普及を図る必要がある。
- 苗木不足の解消に向けた1年生ノンフェザー苗での高密度植わい化栽培の技術を実証する必要がある。

【普及指導活動の内容】

- りんご研究所及び現地モデル園を設置し、栽培管理等の調査を行った。
- 関係機関を構成員とする「中南地域高密度植わい化栽培推進研究会」を開催し、高密度植わい化栽培導入者への支援体制の強化と栽培管理等の情報共有を図った。
- 高密度植わい化栽培の先進地である長野県に視察を行い、最新情報を収集した。
- 中南型（1年生ノンフェザー苗木を利用した栽培方法）4名、従来型（2年生フェザー苗木を使用した栽培方法）5名から栽培技術等の聞き取りを行い、栽培事例集を作成した。

【成果】

- 「中南地域高密度植わい化栽培推進研究会」を3回開催し、現地モデル園の調査結果等の報告や次年度計画について検討した。
- 中南型の夏季と冬期の栽培管理について、平川市密植栽培研究会会員を講師に2回研修を行った。
- 長野県に2回視察し、最新情報を入手するとともに、本県に適したマニュアルの必要性を再確認した。
- 各生産者の栽培技術やポイント等を取りまとめ、「中南地域のりんご高密度植わい化栽培事例集」を作成、配付することで技術の普及を図った。

【対象名】

- 平川市密植栽培研究会（44人）
- 中南管内のりんご高密度植わい化栽培生産者（62人・法人）
- 導入予定生産者



1年生ノンフェザー苗の現地園地



先進地視察研修（長野県）



第3回研究会